関　宿 ＜三重県＞

東海道の難所鈴鹿峠を控えた宿場町

鈴鹿峠に向かって、緩やかに登りながら、緩やかにカーブしながら、かつての東海道沿いに関宿の古い街並みは連なっています。

その長さは1．8km。典型的な宿場町の風景をきれいに残しています。
江戸中期から明治時代に建てられた町家が200軒あまり、どの家屋もきれいに保存修復されていて、地元の方々の理解と長年の努力が実を結んだ結果といえます。

町家は、平入り二階建て、一階が竪格子、二階が漆喰塗りのものが多いようです。

江戸時代には、東海道の宿場町として、東の追分からは伊勢別街道、西の追分からは大和街道が分岐していたこともあり、参勤交代や伊勢参りの人々などで大変にぎわいました。

関宿は古代から交通の要衝であり、壬申の乱の頃には、古代三関のひとつ「鈴鹿関」が置かれていました。 関の名もこれに由来しています。

東海道の宿場町のほとんどが旧態を留めていないなか、宿場町全域にわたって歴史的な町並みが残り、どれもきれいに保存修復されている唯一の町だと思います。

緩やかにカーブする街道に沿って甍の波は続く

鈴鹿峠にむかい緩やかに上る街道

街道沿いでみつかる町家の個性

庵看板と切子格子と幕板

瓦屋根のついた立派な看板は庵看板とよばれます。
一階庇の下にある幕板は、風雨から店先を守る霧除けです。
座敷の前の出窓には、きれいな切子格子。明治時代以降に取り付けられたものだそうです。

漆喰細工と瓦細工

町家の外壁や軒先に目を凝らすと、漆喰細工や瓦細工が見つかります。
子孫繁栄、家運長久などを願って職人が技を凝らして作ったものです。

千鳥破風

関宿を代表する旅籠。
座敷の前についた千鳥破風がその格式を示しています。

竪格子

関宿の町家には竪格子が多く見られます。
この本陣跡の建物には、一階二階ともに切子格子があります。二階は珍しく出桁造り。